

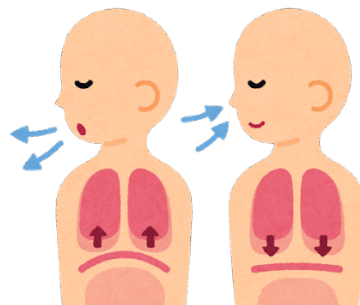
治療中の息どめについて



どうして息を止めるの？

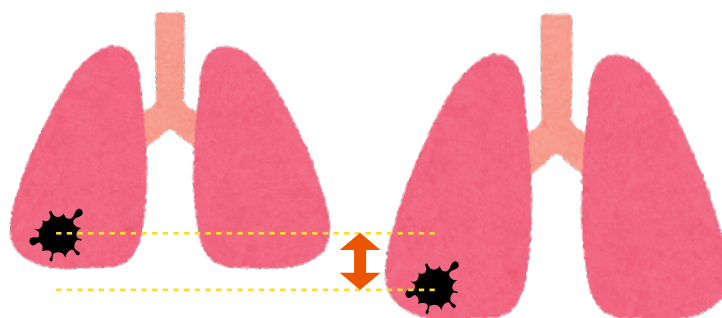
がんの中には、呼吸によって場所が動いてしまうものがあります。例えば、肺は息を吸うと膨らみ、息を吐くと縮みます。この動きに合わせて、がんも動くことがあります。

このがんの動きを出来るだけ少なくして、いつでも同じ位置で放射線を照射できるように、息どめをしながら治療を行うことがあります。



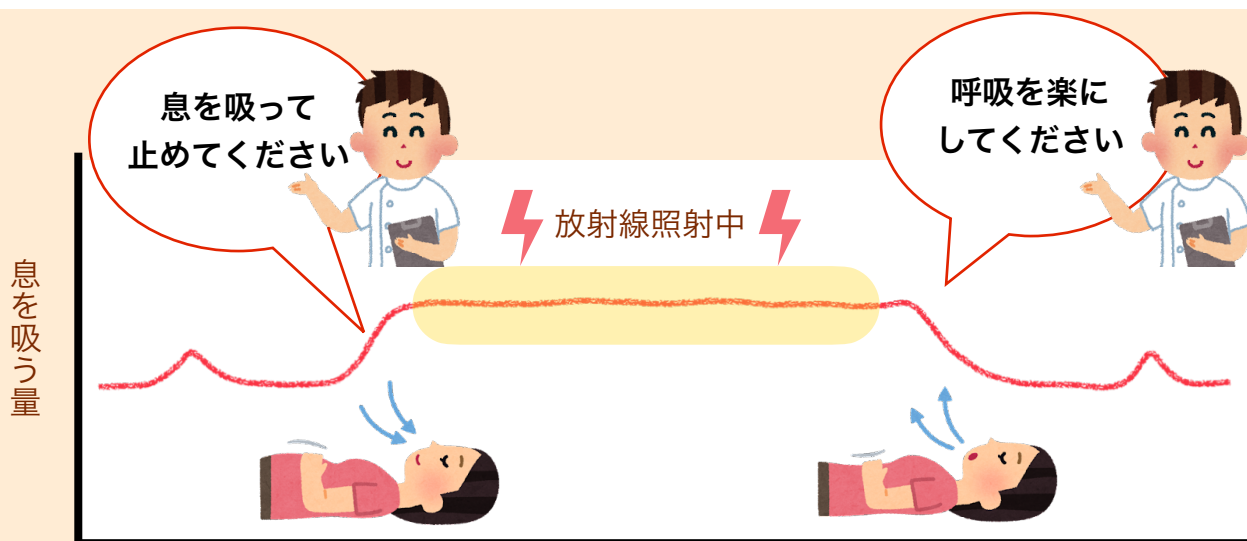
息をはいた時

息を吸った時



息の止め方

治療中は、お腹の上に小さな機械を乗せて、呼吸をモニタリングしています。息を止めると、お腹の動きが止まり一定になります。その間に放射線を照射します。



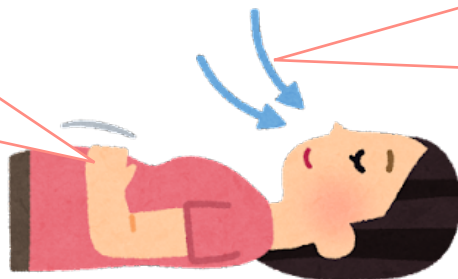
息どめのコツ

ポイント①

息をとめるときは、お腹に力を入れてしっかりとめる

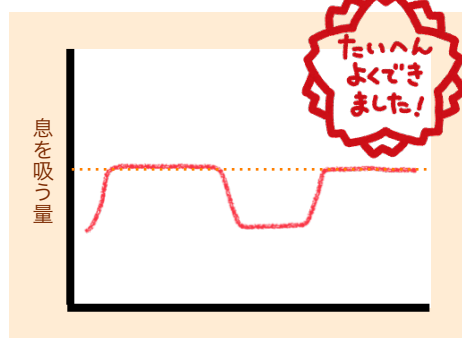
ポイント②

息を吸う量は毎回一定に！

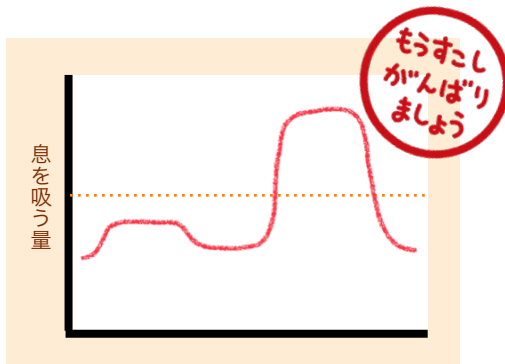


息どめの例

良い例



息を吸う量が毎回バラバラな時



お腹の力が足りない時



息を吸う量が毎回バラバラだったり、息を止める時にお腹の力が抜けて動いてしまうと、治療の時間が長引いたり、正確な治療を行うことができません。

呼吸の波形は常にモニタリングしています。吸い方や止め方についてその都度アドバイスをを行いながら、治療を行います。



気軽にご相談ください！

その日の体調によって、呼吸が苦しくて息どめが難しかったり、息どめの指示が聞こえにくいなどありましたら、気軽にご相談ください。

